

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.208

2019年11月12日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

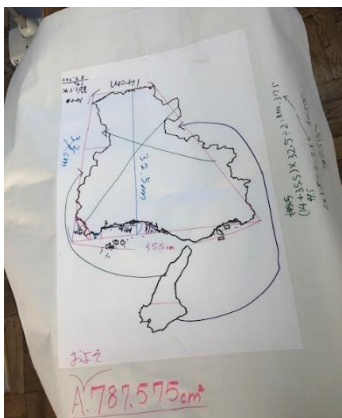
2年前の自分に挑戦

算数・数学教育部会

算数・数学教育部会が三木市で6年生の「およその面積をもとめよう」という単元で授業研究会をおこないました。4年生の学習で長方形や正方形の面積を学習した後、概形として兵庫県の面積を学習してきた子どもたちは、6年生までに三角形や台形、円などの求積公式や小数のかけ算を習得してきました。4年時よりも内容知や方法知が増えたことやより正確に面積をもとめることができることなどが実感できるだろうという考えから授業がおこなわれました。



授業の最初に、4年生で兵庫県のおよその面積を計算した掲示物を見た子どもたちは懐かしそうに振り返ったのと同時に、「今だったら台形を使えるな」とか「淡路島は三角形かな」といったように2年経って習得している知識をもとにすれば、より正確にもとめることができそうだという見通しをもつことができていたようでした。



そして、個人で求積の方法を考えた後、グループⅠとしてお互いの考えを交流しました。そこで、他の考えが多くあることに気づいた後、グループⅡとして活動班で再度意見を交流し、班の方向性として1つにまとめていきました。

いよいよ、計算してみようという場面では、10分という限られた時間のなかで、班での活動が展開されました。三角形や台形をもとに分割してもとめようとする班、全体を長方形と見立てて、海や他府県にあたる部分を除いていく班、島の部分を移動させて計算しようとする班など、様々な考えで活動がおこなわれました。また、定規や計算機、個々に色を変えたマジックペン等を活用し、班のメンバーが協力しながら計算をすすめていきました。

班ごとの計算結果を全体交流した後、答えが授業者から発表されると、子どもたちは大きな歓声をあげました。わずか1cmちがいで求積した班もあり、子どもたちはより正確にもとめることができるようになったことを実感しているようでした。

授業校では、学校としてのとりくみとして、「めあてとのつながり」「じぶんととのつながり」「ともだちとのつながり」「みらいとのつながり」というつながりの輪をイメージして授業を構成しているそうです。今回の授業だけでなく、日頃からの授業や学級づくりにおいて「つながり」を大切にしていることが感じられた時間となりました。



(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)